

2025. 7. 25 レジリエンス・サロン資料

祇園祭とレジリエンス



RESILIENT

CITIES
NETWORK

一般社団法人 レジリエンス協会理事
レジリエント・シティ京都市統括監
Chief Resilience Officer(CRO)

藤田 裕之

hrfujita@city.kyoto.jp.jp



祇園祭の由来と概要

毎年、概ね7月1日から31日まで執り行われる八坂神社の祭礼

7月17日の前祭、24日の後祭の山鉾巡行が注目されがちだが、7月1日の「吉符入り」から始まり、3基の神輿が市中を練り歩く**神幸祭(7月17日)**、**還幸祭(7月24日)**をはじめ、7月31日の疫神社夏越祭まで、様々な神事や行事が行われる。

「日本三大祭」の一つ「祇園祭」の起源

- 863年(貞観5年)「疫病退散」を祈願した祇園社の御霊会
- 864年(貞観6年)富士山噴火
- 869(貞観11年)貞観地震による東日本大津波
- 869年に行われた、当時の国の数(66本)の剣を神泉苑に集め3基の神輿を繰り出し祈願する御霊会が起源とされる。

(2019年には祇園祭1150年が祝われた。)

- ・・・とは言え、諸説あり、実際の起源は曖昧な部分も少なくない。
- 現在のような山鉾巡行の起源は明らかではないが、概ね室町時代には、町衆の誕生と共に始まっていたとされる。
- 応仁の乱(1467年)によって33年間中断するが、1500年(明応9年)に再開。1498年(明応7年)に発生した東海大地震・大津波に対する祈願の意味あったと言われる。
- 江戸時代にも、火災や大雨の被害で度々多くの山鉾が中断し、明治維新の蛤御門の変でも山鉾巡行は中止となった。

明治以降の祇園祭

- 明治維新の混乱期に入り、多くの山鉾が中断
- 事実上、山鉾巡行を支えていた「寄町制度」が廃止されたが、「清々講社」を新たに設置し、危機を回避。
- 神仏習合により、祇園社はスサノオノミコトを祭神とする八坂神社となり、祇園祭も八坂神社の祭礼となった。
- 第二次世界大戦のため1943年～1946年中断
- 1947年に長刀鉾のみが四条通の往復で巡行再開
- 1950年、後祭も再開（前祭とは反対方向に巡行）

巡行ルートの変遷

(前祭)

1955年

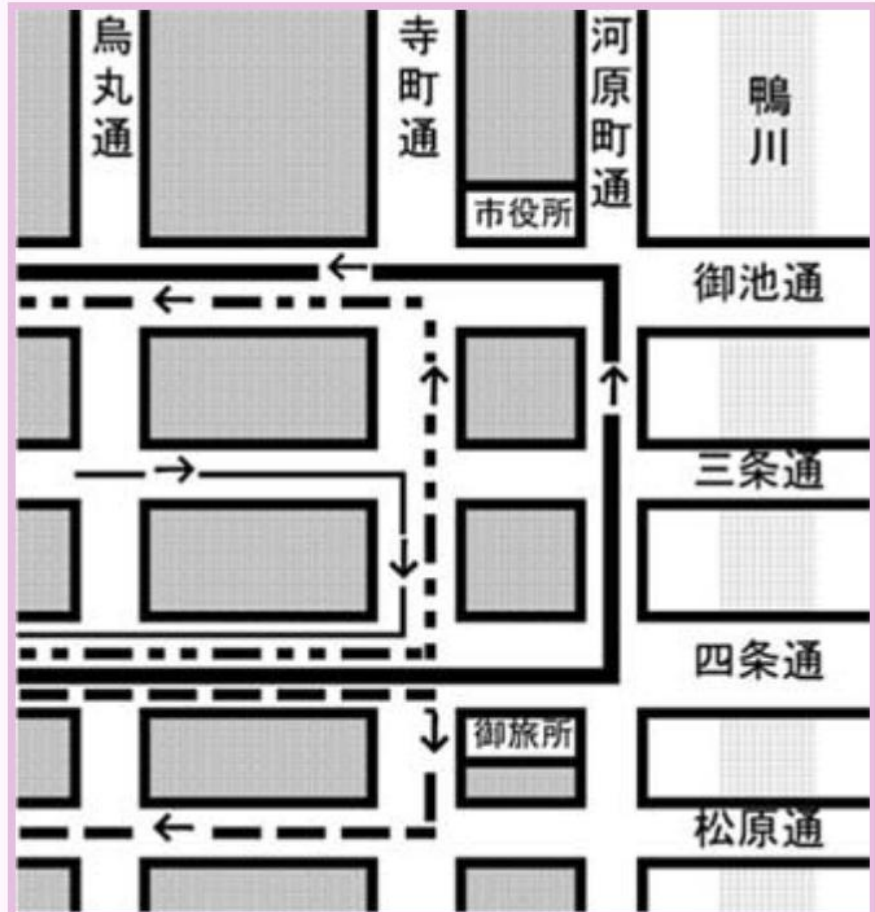
四条寺町から南下⇒北上

1961年

四条河原町から御池通への
現在のルートに変更

(後祭)

1965年まで三条寺町から南下
交通渋滞のため、1966年から
前祭と合同



山鉾巡行コースの変遷

○前祭(17日)

- 昭和30年までの巡行路(戦後は昭和26年から)
- 昭和31年から同35年までの巡行
- 昭和36年からの巡行路

○後祭(24日)

- 昭和40年までの巡行路
(昭和25年から同40年までは四条新町が解散地点)

○昭和41年からは前祭(17日)と合同巡行

山鉾巡行は露払い？

- 本体は八坂神社の三基の神輿
- 神輿の巡行に先立って悪霊を駆除する「露払い」としての役割・・・同時に動く商品陳列でもあった
- 7月17日 前祭巡行・・・神幸祭・・・夜に八坂神社の氏子地域に繰り出す
- 三基の神輿は、四条寺町の御旅所で鎮座
- 7月24日 後祭巡行・・・還幸祭・・・夜に神輿が八坂神社に戻る

＜その意味では、後祭が前祭に
吸収され、独自に行われないこ
とは、本来の趣旨に反する状況＞

- 2014年、
後祭としての巡行が復活



町衆の努力と影響力

- 途絶する危機を何度も乗り越え、町衆の力で継続（コミュニティ・レジリエンス）
- 時代の流れに柔軟に対応して、商業振興、観光振興にも寄与
- 懸装品の新調においては、伝統工芸と最新の流行を融合
- 織物産業の盛衰の中で厳しい現実にも直面
- 「くじ取り式」は市会本会議場で、市長が奉行役として立ち合い実施（巡行時も道中で「くじ改め」）

祇園祭の精神から学ぶレジリエンス

- 自然災害や疾病などの危機を乗り越えることを、人々が心ひとつに念願して始まった祭礼であり、様々なダメージを克服して、一時的な中断を克服し、1150年以上も継続
- 八坂神社の祭事を守りつつ、山鉾保存会として巡行を住民自治の活動、商品陳列・宣伝の場に活用
- それぞれの山鉾が、人口減少、産業構造の変化の中でも、地域に根差して維持継承・・・祇園囃子も各山鉾で独自に保存継承
- 町衆による地域コミュニティ・・・人口ドーナツ化によって、住民や担い手が減少しても新しいコミュニティを結成
- 交通事情による、前祭、後祭の統合など時代の要請を受けつつ、伝統の重みを大切に、本来の巡行を復活させた粘り強さ

(課題)

- 粽の原料となる笹の確保が困難に(気候変動も影響)
- 「蘇民将来子孫也」の逸話に込められた精神の継承
- 曳き手の不足からボランティアとして学生や留学生も参加
- 伝統を守る中で、女人禁制の鉾も存在

全国に残る祭礼もレジリエンス

- 祇園祭だけではなく、全国で維持されている様々な祭礼にも同様の意義がある。
- 祭礼を通じた協働作業・・・氏子をもとにする地域コミュニティの形成(防災訓練)
- 鎮守の森の存在、自然災害への備え
- 自然への感謝、畏敬の念を大切にしたライフスタイル・・・文化・芸術・伝統工芸への貢献
- 後継者の育成に向けた貴重な機会

レジリエンスにおいて不可欠な 「4つの繋がり」への気づき

周囲の人々

自然や環境

関係性、感謝、当事者意識

過去・未来

社会の仕組み